

一般質問通告書

【第67回定例会】

多可町議会議長 安田昇司 様  
 多可町議会議員

 

受領日	番号
平成27年12月7日	8
午前・午後11時00分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 高齢者に就労可能な仕事の創設を	町長
別紙	
2. リバースモーゲジの導入を	町長
別紙	
3. 役場建設に地元事業者の参入を	町長
別紙	

1・高齢者に就労可能な仕事の創設を

「下流老人」問題が顕在化している。しかもこの問題は、低所得者、個人事業主だけの問題でなく誰でも「下流老人」になる可能性がある。

従来のセーフティーネット施策は、高齢期を「受け身的な存在」として捉え、右肩上がりの税収や基金を活用したサービスの提供が中心となっている。高齢期も生きがいを持って社会を支える側としてあり続ける町を作る必要があるのではないかと考えるがどうか。

農村の強みを生かした商材の開発。

JAみのりは現在力「たがーりっく」と命名したニンニク作りに力を入れている。

現在ニンニクの産地を中心に、発芽ニンニクの製造販売が盛んになってきている。

発芽ニンニクの製造販売は、農家所得の向上に資するのみに止まらず、障がいをお持ちの人や高齢者の雇用を生み出しているのが特徴だ。

町は、農林業公社を活用して、このニンニクを使った発芽ニンニクの開発あるいはそのための支援をすることで、高齢者の雇用の場を創るべきだと考えるがどうか。

市場開拓のための専門員の配置や少額の融資等を中心にした起業支援策が必要ではないか。

2・リバースモーゲージ制度の創設

空き家を作らない取り組みの一環として、リバースモーゲージ制度を創設してはどうか。

またリバースモーゲージ制度と生活保護制度を組み合わせることで高齢期の貧困対策に資するのではないか。また町所有になった住居は、1ターン住居等として活用してはどうか。

3・役場建設に地元業者の参入を

いよいよ次年度から本格的に新庁舎の建設が始まる。かつてない規模の建設工事になるわけだが、都市部の大手企業等がやってきて建築したのでは意味がないのではないか。町内には庁舎建設に加わるいろいろな技術を持った事業者がある。可能な限り最大限地元業者が工事に参加できるようにするべきではないか。